デメテール
Demeter
群馬県立自然史博物館だより　No.92
Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2025.夏

デメテールはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

絵：『ながいながい骨の旅』（松田素子／文　川上和生／絵　講談社刊）表紙より

第72回企画展「ながいながい骨の旅」関連イベント

1．企画展講演会「骨という小さな海--骨誕生の物語--」

企画展開催を記念して、絵本「ながいながい骨の旅」の作者が絵本にまつわるお話をします

・講師：松田 素子（編集者・作家）
・日時：令和７年７月20日（日）13:30～15:00
・会場：群馬県立自然史博物館　学習室
・定員：100名（申込順）
・対象：小学生以上
　＊小学生以上の内容ですが、興味をおもちの未就学のお子様もご参加いただけます
　＊小学生以下のお子様は保護者と一緒にご参加ください

2．企画展特別講演会

博物館の展示を見ながら、「ながいながい骨の旅」に想いをはせてみませんか？

・講師：真鍋 真（群馬県立自然史博物館 特別館長）
・日時：令和７年９月21日（日）13:30～15:30
・会場：群馬県立自然史博物館　学習室
・定員：100名（申込順）
・対象：どなたでも
　＊小学生以下のお子様は保護者と一緒にご参加ください

3．企画展ワークショップ
「TCA東京ECO動物海洋専門学校の学生たちと行く、うごくうごく骨の旅」

・講師：TCA東京ECO動物海洋専門学校
・日時：令和７年10月12日（日）
　①10:30～11:30　②13:30～14:30
・会場：群馬県立自然史博物館　実験室
・定員：20名程度（抽選制）
・対象：どなたでも
　＊小学生以下のお子様は保護者と一緒にご参加ください
＊本事業は群馬県立自然史博物館とTCA東京ECO動物海洋専門学校の共催事業です

4．企画展ワークショップ
「川上先生といっしょに『骨をもつ生き物』の絵を描いてみよう」

絵本「ながいながい骨の旅」の画家と一緒に博物館の標本を観察して絵を描きます

・講師：川上 和生（イラストレーター・画家）
・日時：令和７年11月９日（日）13:30～15:00
・会場：群馬県立自然史博物館　実験室
・対象：４歳以上
・定員：30名程度（抽選制）
　＊小学生以下のお子様は保護者と一緒にご参加ください

5．企画展ワークショップ
「TCA東京ECO動物海洋専門学校の学生たちと行く、うごくうごく骨の旅」

・講師：TCA東京ECO動物海洋専門学校
・日時：令和７年11月30日（日）
　①10:30～11:30　②13:30～14:30
・会場：群馬県立自然史博物館　実験室
・定員：20名程度（抽選制）
・対象：どなたでも
　＊小学生以下のお子様は保護者と一緒にご参加ください
＊本事業は群馬県立自然史博物館とTCA東京ECO動物海洋専門学校の共催事業です

＊全て当館ホームページよりオンライン申込です
（開催日の約１ヶ月前より申込開始、詳しくは当館ホームページをご確認ください）

＊全て参加費は無料です
（ただし観覧券の提示が必要です）

展示紹介

第72回 企画展
「ながいながい骨の旅」

本企画展では、当館が監修に携(たずさ)わった絵本『ながいながい骨の旅』を題材に、骨の進化と多様性に焦点をあてて展示します。生命の誕生からはじまり、背骨を獲得した生き物が地上に進出し発展してきた過程をユーステノプテロンやセイムリアといった昔の生き物から、現在生きているたくさんの生き物たちと私たちヒトとのつながりを「骨」をキーワードにしてご紹介します。自然史博物館ならではの絵本の世界をお楽しみください！　（地学研究係　藤巻　裕和）

セイムリア

自然のコラム　当館の隠れた人気スポット

当館の常設展示室の最後、２階から１階へ降りる階段の先にある奥まった場所に小さな水槽が並んだスペースがあります。一見目立たない場所ですが魚たちを目の前で見ることができるため当館の隠れた人気スポットになっています。

この水槽ではタナゴの仲間が生体展示されています。タナゴはコイ目タナゴ亜科に属する魚類で、日本では在来種として３属 11 種８亜種が分布しています。またタナゴのメスは産卵管を伸ばして、二枚貝の鰓(えら)の中に産卵することでも知られており、当館でも時期になると産卵管を伸ばしたメスを見ることができます。

群馬県ではかつて東毛地区を中心に５種の在来種のタナゴ類の分布が確認されていました。しかし、現在ではそのうちの４種（ミヤコタナゴ、タナゴ、アカヒレタビラ、ゼニタナゴ）は絶滅してしまいました。また、残る１種（ヤリタナゴ）も藤岡市の保全されている移殖地の個体群が生息するのみです。

展示されているタナゴたちは一見するとどれも同じように見えるかもしれません。しかしよく見比べてみると、ヒゲの有無やそれぞれの種類ごとに体の色や体形が少しずつ異なるような違いを見つけることができます。また同じ種類でもオスとメスでは体の色の違いがわかります。

当館では今回紹介した場所以外にも常設展示室Ｂコーナーでミヤコタナゴを生体展示しています。このミヤコタナゴは 2010 年に閉館した群馬県立水産学習館より引き継いだものです。ミヤコタナゴはかつて関東地方に広く生息が知られ、群馬県では館林市の城沼で生息していました。しかし、現在では野生の個体は千葉県・栃木県のごく一部にわずかに生息するにすぎません。　（生物研究係　木村　敏之）

研究の扉

原三角測点に関する文化地質学的研究

下仁田町の里見哲夫先生に「菅原さんにこのファイルを預けるよ。」と言われ、原三角測点に関する資料のファイルを預かりました。それが原三角測点の研究を始めたきっかけです。

原三角測点は、明治時代になって初めて近代測量の技術を用いて日本全国を測量する計画の中で設置されました。現在、日本全国に約10万点設置されている三角点は、位置の情報（緯度・経度）を持つ国家基準点です。一般の生活には使わないように思えますが、皆さんが普段から目にする地図を作る時や家を建てたり土地を売ったりする時、川や道路工事をする時には必ず使われます。この三角点の最も古いご先祖様が原三角測点というわけです。

かつて、50点以上設置されたという原三角測点の多くは、現在の一等三角点へと引き継がれたため、ほとんどの原三角測点を示す標石は取り除かれました。ところが、これまでに３点だけ原三角測点の標石が見つけられていて、そのうちの１つが群馬県の下仁田町と藤岡市の境の白髪岩の山頂にあります。

個人的には、現在の人々の生活を支える三角点の原点を想起できる資料として、文化的に極めて貴重だと思います。ところが、白髪岩の原三角測点は市町の文化財にもなっていません。そして、現存する他の原三角測点の標石２点を調べると、新潟県の米山（上越市と柏崎市の境界）と雲取山（埼玉県と東京都の境界）にあることがわかりましたが、どちらも文化財に登録又は指定されていません。

歴史・文化に熱い人は、この時点で『それはいかん！』と思うかもしれませんが、これには理由があります。資料に関する調査・研究がされて、資料の重要性や希少性がはっきりと示されたものでないと、公的に保護・保全・活用・整備する必要があるかがわかりづらいため、文化財として登録又は指定して良いかを話し合うことができません。そこで私は研究者として、関係する方々と協働して原三角測点の研究を行い、文化的価値を客観的視点から明らかにしようと思ったのです。

御荷鉾スーパー林道の杖植峠付近から50分程度歩くと「原三角測点」にたどり着きます。ロープがついた岩場が１ヶ所ありますが、春先には岩場に咲き誇るアカヤシオを見ることができ、関東山地を眺望できる見晴らしの良い場所もあるお手軽なハイキングルートです。

歩きやすい平らな登山道や緩やかな傾斜は、風化しやすい中生代ジュラ紀の泥岩でできていて、地形的に出っ張っていて岩肌が見える場所はチャートという固い岩石でできています。原三角測点が設置される場所の条件は見晴らしが良いことです。白髪岩山頂付近はもちろんチャートでできています。

白髪岩の原三角測点の標石には、３つの面に「原三角測点」、「明治十五年十月」、「内務省地理局」と彫られています。白髪岩と新潟の米山にある原三角測点は、明治15年４月から舘潔彦と八木橋則正の２名が担任して測量・設置されたことが分かっています。研究では、白髪岩だけでなく、米山にも登って原三角測点の標石の刻字（彫られた文字）の拓本を採り、文字の比較を行いました。私の専門は地質・岩石学なので、標石に使われた岩石の種類も明らかにしました。

研究によって明らかになった白髪岩の原三角測点標石の主な文化的価値は、次の４つです。①石材は南牧村産の「椚石」であり、南牧村から下仁田町中心部を経由して白髪岩へ運ばれたことが初めてわかりました。②米山の標石と刻字を比較することで、２つの標石は１文字ごとに用意された同じお手本をもとに彫られたことがわかりました。③森林管理署の協力で、白髪岩の標石が国有林と民有地の境界線を示す現役の境界標（境界線沿いに点々と設置されている標石）として使われていると分かりました。④設置当初から移設されていない唯一の原三角点標石であることがわかりました。

ここまでの研究成果は、たくさんの関係者と一緒に取り組みまとめました。まだできていないことは、藤岡市の皆さんとつながりを作ることです。また、市町村を問わず、ご一緒することは大歓迎ですので、ぜひお気軽にお声かけください。

（地学研究係　菅原　久誠）

白髪岩の原三角測点

研究論文へのリンク

つながる・ひろがる 博物館の情報発信！

博物館では、皆さまに情報をお届けするため、広報活動に力を入れています。近年では、チラシやポスターの県内外への送付、新聞・テレビなどの各種メディアへの情報提供に加え、SNSを活用した発信にも積極的に取り組んでいます。

現在、当館では Instagram、X、Facebookの３つのSNSを運用しています。企画展やイベントのお知らせはもちろん、職員の取り組みなど、普段はなかなかお伝えすることができない“博物館の裏側”も紹介しており、「博物館をより身近に感じてほしい」「多くの方にその魅力を届けたい」という思いを込めて、日々情報を発信しています。

昨年度は新たな広報の取り組みとして、当館で常設展示されているヒゲクジラの化石インカクジラ・フォーダイセイをモチーフにしたキャラクター「グペール」が誕生しました。名前は一般公募により、多くの応募の中から選ばれたものです。

キャラクターデザインは whale artist のあらたひとむさんが担当してくださいました。応募の際には、「博物館での出会いや学びの場が広がることへの期待」が込められたコメントも多く寄せられ、今後、「グペール」がさまざまな場面で活躍していくことが期待されます。

また、デザイナー・美術作家の近藤愛子さんがデザインした、当館オリジナルステッカーも制作しました。当初は１種類の予定でしたが、近藤さんの５つのデザインがいずれも魅力的だったため、すべてを採用することとなりました。それぞれ個性あふれるデザインとなっており、ご来館の皆さまからも大変ご好評をいただいています。これらのステッカーはイベントでの配布のほか、SNS をフォローし、その画面を解説員にお見せいただくことでも受け取ることができます。配布情報は随時 SNS でお知らせしておりますので、ぜひチェックしてみてください。

さらに、群馬県公式 YouTubeチャンネル【tsulunos】では、「３分でわかる自然史博物館」シリーズの新作も昨年度に公開しました。展示だけでは伝えきれない博物館の“今”を、映像でお届けしています。

今後も、さまざまな広報活動を通じて、より多くの方に博物館の魅力を発信してまいります。どうぞご期待ください。

（教育普及係　田中　佑典）

利用案内

■開館時間　午前9:30～午後5:00（入館は午後4:30 まで）

■休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

■観 覧 料

	一　般	高校・大学生
常設展のみの開催	510円（410円）	300円（240円）
第72回企画展開催時（R7.7.19～9.7、9.13～12.7）	1000円（800円）	500 円（400 円）

＊中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
＊（　）内は、有料者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.92

編集・発行　群馬県立自然史博物館
〒370-2345　群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200　Fax.0274-60-1250
ホームページ
https://www.gmnh.pref.gunma.jp/

Demeterは、地球環境保全のため
植物油インクを使用しています。